



高原の風だより

2020（令和2）年4月 発行 <第18号>

開田高原の景観の素晴らしさを再認識

ドローンで見た上空120mの景色

～ 早稲田大学（景観デザイン室）が協力 ～

ドローンを飛ばして上空から美しいふるさとの自然や農村風景などを撮影、その素晴らしさを再認識し美しい景観づくりをさらに進めようと令和元年度、開田高原倶楽部（坂口和芳会長）では町のまちづくり活動推進事業を活用して景観事業を実施した。

早稲田大学の景観デザイン室（佐々木葉教授）が全面的に協力をしてくれた。

昨秋、先生や学生らが開田高原内 12カ所余りで、ドローンを飛ばして上空からの撮影を実施。

そして今年2月には撮影した映像を見ながら景観を考える会を開催。佐々木先生らの話を聴きながら開田高原の景観の美しさを再認識するとともにその重要性を学んだ。



山下家の駐車場上空から南西方向を望む

本格的なドローン撮影 ～開田高原内12カ所～

昨年9月と11月の2回、4日間にわたり早稲田大学の景観デザイン室の佐々木葉先生や学生、研究者、建築家らの全面的な協力により開田高原で初めて本格的なドローンによる上空からの撮影が行われた。

場所は末川大屋をはじめ木曾馬の里、把ノ沢、西野下向、藤沢、下ノ原、やまゆり荘、柳又など12カ所余り。

学生が手際よく操作するドローンは上空80mと120mで停止し、それぞれ360度の景色を撮影。貴重で美しい秋の映像を撮影した。



ドローンを操作する早稲田の学生ら

ドローン映像から開田高原の景観を考える ～40人が意見交換～

ドローン映像を見ながら開田高原の景観を考えようと2月22日、開田母子健康センターで講演や意見交換が行われた。当日はあいにくの天気にもかかわらず町内外から40人余りが参加。早稲田大学の佐々木葉先生や公共経営研究ユニットの藤倉英世代表らの話を聴いた。「道路や護岸など無理せずその場所の地形や特性を人々が守り、生かしてきたことが現在の美しい景観につながっている」とドローン映像を見ながら今までの取り組みを評価。

その後、グループに分かれ景観についての意見交換を行った。



ドローン映像に見入る参加者

令和2年度

木曾町の主要事業を紹介します

～ 過去最高の117億1500万円 ～

3月の定例議会で令和2年度木曾町一般会計117億1500万円の当初予算が議決された。これは木曾町始まって以来の大型予算。この中から主要かつ特徴的な事業の一部を紹介する。

役場本庁舎・防災センター建設 7億9500万円



順調に工事が進む役場本庁舎・防災センター(3月12日撮影)

昨年10月から工事が始まった役場本庁舎・防災センター。暖冬で降雪が少なかったこともあり工事は順調に進んでいる。

本庁舎・防災センターの新年度工事費は7億9500万円。外構や備品などを含めた全体事業費は約17億円。建物は木造平屋建て2,570平方メートル。中山道の宿場町に見られる伝統様式の「出し梁造り」が特徴。工事請負業者は岡谷・松本土建・正澤・開田特定建設工事

共同企業体。工期は令和元年9月12日から令和3年1月15日。開庁は来年4月を予定している。

木曾福島駅エレベーター補助金 9800万円

お年寄りや足の不自由な方などから強い要望があった木曾福島駅エレベーター。当初、一日当たりの乗降客数が3千人を超える駅から順次エレベーターを設置するというのがJRの考え方であったが、町の強い要望により平成30年度より事業が進められている。(ちなみに木曾福島駅の乗降客数は約1,700人)

事業主体はJRで全体事業費はおよそ2億3200万円。町は国や県の補助金を受けながら昨年度はJRへ1,900万円補助。今年度は約9,800万円を計上した。さらに今後4,200万円余りを見込む。供用開始は令和4年になる見通し。



JR木曾福島駅

開田中学校トイレ洋式化工事 7100万円

快適な教育環境の整備を図るため毎年計画的に町内の小・中学校などで、トイレの洋式化工事が進められている。昨年は、日義小・中学校で実施。今年度は開田中学校で工事が行われる。事業費は7,100万円。



開田中学校

おもちゃ美術館基本・実施設計 4180万円

町は木の文化を大切に、木の産業を復興させるため「木育」推進に力を入れている。そこで東京おもちゃ美術館の監修のもと、その姉妹館として「木曾おもちゃ美術館」を計画。観光促進や多世代交流、木工振興の拠点整備を目指す。

建物はふるさと体験館きそふくしまの旧体育館の活用を検討中。木造建物で天井が高く立体的な利用が可能なことや古い校舎として記憶に留まる建物であることなどから現建物を補強、改修して使用する考え。

全体事業費はおよそ5億円。本年度は4,180万円で基本・実施設計費に充てる。令和4年春の開館を目指す。今後、おもちゃの遊び方を解説するだけでなく、遊びの楽しさや喜びを伝えるボランティアスタッフの養成が重要になる。



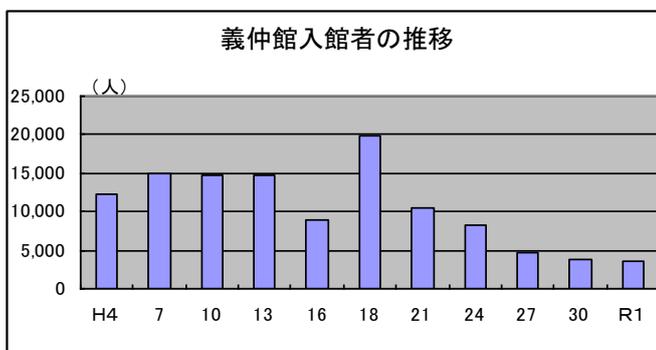
東京おもちゃ美術館の様子

義仲館リニューアル 3190万円

義仲館の展示内容の充実を図り入館者を増やすためリニューアル工事を実施。昨年度から行われており全体事業費はおよそ9,000万円。

今年度は3,190万円の事業費で、義仲・巴の生涯を紹介する映像等を制作するほか映像関連機器、備品等の整備を行う。リニューアルオープンは令和3年春の予定。

(注) H4年5月開館。H18年権兵衛トンネル開通。



(出典：日義支所)

上田跨線橋・七笑橋新設改良 9630万円

道路や橋の整備については、幅員が狭く長年要望のあった旧上田小学校へ向かう上田跨線(こせん)橋の詳細設計を実施。事業費3,470万円。

また、国道19号七笑橋(相撲場付近)の改修工事が国の事業で行われる。工事に伴い両側に仮設橋が架かるが、西側(コインランドリー側)は永久橋とし将来は町道になる予定。永久橋と仮設橋の差額が町の負担金になり6,160万円余りを見込んだ。今年度は用地補償と橋台工事、来年は本体工事が行われ、供用開始は令和4年になる見通し。



改修工事が予定されている七笑橋

ビジターセンター整備事業 4700万円



「御嶽山を知り、火山を理解し、次世代につなげる」という基本理念のもと、三岳の道の駅付近に木曾町御嶽山ビジターセンター(里エリア)を建設する。建物はおよそ500平方メートル。全体事業費は約3億2000万円。今年度は建物や展示内容の設計費用として4,700万円を計上。

火山や登山道の情報発信、災害の記録や記憶の伝承、火山防災知識の普及・啓発、御嶽山火山マイスターの活動拠点機能などを備える。来年度工事をを行い、開館は令和4年度の見込み。

なお、王滝村田の原には県事業で御嶽県立公園ビジターセンター(山エリア)の建設を予定している。2つのビジターセンターがいかにかそれぞれの特色を出し、連携を深めながら魅力を高めていくのか。完成後の運営母体や経費なども含め十分な検討が求められる。

←剣ヶ峰を目指す登山者

御嶽山携帯電話基地局建設 1億770万円

御嶽山の災害対策の一環として二ノ池付近に携帯電話基地局を建設。噴火災害などの緊急時における携帯電話不感地帯の解消を図る。発電機2基を収納した格納庫を設置し、壁面にアンテナを設置する。事業費1億770万円。国・県の補助を受け町負担は9分の1。NTTドコモなど事業者も町と同額を負担する。本年度はアンテナ設置までを行い、本格運用は令和3年度シーズンになる見通し。

相撲場耐震診断・林業会館解体 3890万円

町の小学生相撲大会や中部日本中学生相撲大会をはじめ御嶽海の所属する出羽海部屋の合宿など近年、使用頻度が高まっている町民相撲場。

令和9年の長野国体(相撲会場)に向け、本土俵の耐震診断と隣接し老朽化している林業会館の解体を行う。事業費は耐震診断690万円、林業会館解体が3,200万円。

会館跡地には土俵や大広間、炊事場、倉庫などを備えた総合トレーニングセンター(仮称)を計画している。

なお、混雑が予想される駐車場については、旧上田小学校や根曾土捨て場などが検討されている。



林業会館(左奥)と町民相撲場

はりきりご長寿列伝

ほりうち せいじ 堀内 征二 さん (81歳・王滝村) ⑮

このコーナーでは高齢にもかかわらず今なお元気に仕事をしている人、自分の趣味に専念している人など元気あふれるお年寄りを紹介しています。今回は王滝村の堀内征二さんです。なお、この様子は1月27日、NHK テレビのイブニング信州で放映されました。



堀内 征二 さん

相手のことを思いながら心を込めて描く ～絵手紙インストラクター～

「絵心がないからダメだという人がいるが、下手でいい。相手のことを思いながら心を込めて描くことが大切」と話すのは絵手紙インストラクターの堀内征二さん。永年郵便局員として働き、64歳で郵便局を退職した後もボランティアで絵手紙の指導を続けている。



堀内さんの作品

堀内さんと絵手紙の出会いは25年程前にさかのぼる。絵手紙文化の普及を目的とした郵便局の絵手紙インストラクター事業で、堀内さんが中信地区の担当になり、研修を受けてインストラクターの資格を取得。以後、地元の王滝村や郡内はもとより松本や安曇野などの小学校や公民館教室などでも指導をしてきた。

「受講生との絵手紙のやり取りや交流が楽しみ」と笑顔で話す堀内さん。絵手紙は季節の花や野菜、植物など何でも題材になるが、その描き方については「描くときはゆっくり、色を塗るときには筆を叩くようにするのがコツ」という。また「対象をよく見つめて『面白い』と感じた部分に注目して描いてみるのが大切」とアドバイスする。

平成30年には、公民館長などを歴任したほか絵手紙を通じて学校や公民館、福祉施設などで世代間交流に尽くしたとして、信越郵政人連盟から地域貢献活動賞をいただいた。今なお社会教育委員など村の公職も数多く担っている堀内さん。「とにかく元気が一番」と張り切っている。



絵手紙の筆を取る堀内さん

私の本棚

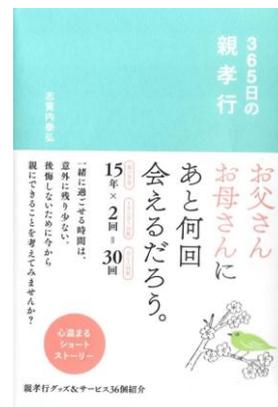
『365日の親孝行』 (志賀内泰弘著・リベラル社)

～お父さんお母さんにあと何回会えるだろう～



今回も、また名古屋在住の作家・志賀内泰弘先生の新刊を紹介します。本書では、「自分の誕生日は親に感謝する日」「親よりも長生きする」「家族団らんの時間を作る」などさまざまな形の「親孝行」を365取り上げています。「お父さんお母さんにあと何回会えるだろう。一緒に過ごせる時間は意外に残り少ない。後悔しないために今から親にできることを考えてみませんか?」と呼びかけています。

先生から試読版の小冊子(約30ページ、無料)をいただいています。希望される方には差し上げますので、下記まで連絡願います。



編集後記

近年は本当にさまざまな自然災害や考えられない事件、事故が続いています。今回の新型コロナウイルスも同様で、世界的な感染拡大は全く想像を絶します。国内でも感染が拡がり、日本経済に大きな影響が生じています。各地で不要不急の外出禁止が叫ばれる中、「コロナ疲れ」や「コロナ慣れ」が指摘されていますが、一人ひとりが他人事として捉えるのではなく、自分でできる対策をきちんと行っていくことがとても重要だと思います。一日も早い終息を心から願っています。

訂正 会報17号(3頁)の「3月11日は、あたりまえをありがたいと思う日」の記事の中で「原爆事故」は「原発事故」の誤りです。訂正してお詫び申し上げます。



編集・発行者： 大目 富美雄 (おおめ ふみお)

〒397-0301 長野県木曾郡木曾町開田高原末川 5190 番地

電話& FAX 0264-42-3661 携帯 090-2526-7156

E-mail info@ome-fumio.com